

第29回

約150年

## 十勝を見守る ハルニレの木

昨年、秋に浦幌町の図書館祭りで講演をする機会に恵まれた。帯広からお迎えの車で、十勝国道と呼ばれる国道38号を十勝川に沿って向かう。途中、「ようこそ、ハルニレの町へ」と書いた豊頃町の大きな看板が目に入った。あのハルニレはここだったのかと改めて場所を認識した。あのハルニレは、30年近く前、知り合いが出した豊頃町のハルニレをジャケットにしたCDを思い出したからだ。ネットで紐解くとハルニレは推定樹齢が150年にもなるらしい。

浦幌町の図書館では1時間ほどお話をさせていただき、その後博物館を見学させていただいた。浦幌町には以前、取材で来たことがあったが、博物館を見学するのは初めてだ。博物館内には浦幌や近隣で見つかったさまざまなものが収蔵されていて見応えがある。学芸員の方が「「十勝」発祥の地はこのあたりからなんです。浦幌のこの博物館は十勝で初めての一番古い博物館なんです」明治以降の道東への開拓の足掛かりが、豊頃町と浦幌町の間を流れる大きな十勝川であったからだという。その河口付近では古くからアイヌの人たちが暮らし、それ以前にも縄文人が暮らし、土器などがたくさん見つかっている。大昔から海の幸も山の幸も豊かであった土地だったのだ。

最近のニュースでは赤潮の影響で鮭など魚介類に多大な影響を及ぼしているとのある。地球規模で見回しても激しい環境の変化が訪れているといっても過言ではない。ハルニレはこの150年の変遷を見てどう思うのだろうか。願わくば、ハルニレがこの先も大地に、豊頃町のシンボルとしてあり続けて欲しい。



### すずき もも

イラストレーター・絵本作家/スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつはたけのごちそうなーんだ?」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ? くだもの」(アリス館)がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。



浦幌町立博物館

十勝で一番最初にできた博物館。おくれた収蔵物がぎゅっと詰っています。図書館も併設されています。



無料で入館できます。



ジュエリーアイス!!

豊頃町の冬の風物詩。1月下旬から2月下旬までが見頃です。凍に打ち上げられた十勝川の氷がとろとろのアイス。

十勝発祥の碑



冬をたのしもう!!

十勝発祥の石碑 豊頃町100周年に建てられた石碑です。